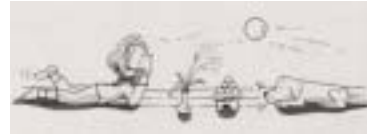


す ま い る

平成17年10月 京田辺市立田辺中学校保健室発行



9月24日～9月30日・・・結核予防週間

「結核」について知り、結核にかからないように、自分でしっかりと「健康管理」が出来るようになります。

ホームページ 日本医師会「健康の森」より

「結核は昔の病気・・・」と思ってしまいがちですが・・・

生活水準や環境衛生の向上、医療・医学の進歩によって患者数、死亡数は大きく減少しましたが、1997年には発生率が再び増加に転じました。この状況に危機感を抱いた国は、1999年に「結核緊急事態宣言」を発表し、本格的に結核の拡大防止に乗り出しました。こうした取組で患者数は再び減少していますが、依然として警戒が必要な状況は変わりません。



結核の感染経路

「空気感染」します。

- 発病した人の咳やくしゃみで飛び散りますが、空中を落下する途中で水分が蒸発し、きわめて小さな「飛沫核」となります。この「飛沫核」は長時間空気中を漂い、空気の流れにともなって広く移動するので、部屋や乗り物などの閉鎖空間では遠くにいる人でも感染が起こります。

結核の症状



「飛沫核」は、5 μm 以下と非常に小さいので、吸い込むと肺の末端部分の肺胞に到着して定着します。しかし、菌を吸い込んだ人すべてが発病するわけではありません。健康であれば、身体の免疫機能が働いて結核菌の増殖を防ぎます。ところが、高齢になったり他の病気などで免疫力が弱ると菌を抑えられなくなり、発病する可能性が高くなります。

結核を発病しても初期の段階では自覚症状が出ないので、しばしば進行状態で発見されます。病気が進んでくると、咳、たん、微熱、体がだるいなどかぜとよく似た症状が現れます。

初期の段階では、感染していても自然に治癒する場合や、結核菌を強い力で封じ込んでいれば、それ以降発病することなく過ごすことが出来ます。しかし、病気がさらに進行してしまうと、体重減少、血痰、喀血などが見られるようになります。咳が長引いている場合は、病院で診察を受けましょう。

結核の予防

空気によって運ばれてくる結核菌をシャットアウトすることは難しいので、抵抗力のある体を保つことが大切です。もし感染しても、抵抗力があれば、免疫機能が働いて発病を防ぐことができます。

抵抗力のある体を作るには・・・



抵抗力があれば、これからの季節に流行する「インフルエンザ」や「かぜ」にもかかりにくくなります。

若さに任せて無理な生活をしたり、ダイエットや偏った食生活をしていると抵抗力は落ちてしまいます。規則正しい生活を心がけましょう。



学校では

内科検診の前に、各家庭で「結核問診票」を記入してもらい、それに基づいて、校医先生から検診を受けています。異常が見られた人は「綴喜地方小・中学校児童生徒結核対策委員会」で精密検査（ツベルクリン検査、エックス線直接撮影など）の有無を検討しています。